

**大腸癌研究会プロジェクト研究**  
**「炎症性腸疾患合併消化管癌のデータベース作成と臨床病理学的研究」**  
**第7回プロジェクトミーティング議事録**

日時：2023年1月26日14時45分～15時15分

会場：浜松町コンベンションホール 6F 大会議室 B および WEB のハイブリッド開催

委員長：石原聡一郎

出席者（敬省略、50音順）

・現地参加

味岡洋一(新潟大学)、上原 圭(名古屋大学)、市原明子(宮崎大学)、岩谷 舞(信州大学)、梅本芳寿(京都大学)、大谷真由子(東京医科歯科大学)、岡林剛史(慶應義塾大学)、小川真平(東京女子医科大学)、奥川喜永(三重大学)、尾地伸悟(京都大学)、川村純一郎(近畿大学)、木下敬史(愛知県がんセンター)、高村卓志(国際医療福祉大学熱海病院)、小松更一(東京大学)、小山文一(奈良県立医科大学)、佐伯泰慎(高野病院)、佐々木和人(東京大学)、佐藤 雄(東邦大学佐倉病院)、品川貴秀(東京大学)、島村 智(久留米大学)、須並英二(杏林大学)、曾田悠葵(防衛医科大学校)、清島 亮(慶應義塾大学)、大東弘治(近畿大学)、高見沢康之(国立がん研究センター中央病院)、間山裕二(三重大学)、所 為然(京都大学)、野上 仁(新潟県立がんセンター新潟病院)、野口竜剛(東京大学)、服部憲史(名古屋大学)、肥田候矢(京都大学)、藤本浩輔(奈良県立医科大学)、松田圭二(帝京大学)、松山貴俊(埼玉医科大学)、水内祐介(九州大学)、山内慎一(東京医科歯科大学)、山田一隆(高野病院)、山本聖一郎(東海大学)

・Zoom 参加

安西紘幸(東京大学)、池端昭慶(埼玉病院)、石田文生(昭和大学横浜市北部病院)、石丸 啓(愛媛大学)、板橋道朗(東京女子医科大学)、糸井祐貴(群馬大学)、大北喜基(三重大学)、小形典之(昭和大学横浜市北部病院)、風間伸介(埼玉県立がんセンター)、木村英明(横浜市立大学附属市民総合医療センター)、仕垣隆浩(久留米大学)、志田 大(東京大学医科学研究所)、島田能史(新潟大学)、関戸悠紀(大阪大学)、谷 公孝(東京女子医科大学)、豊田尚潔(栃木県立がんセンター)、根津理一郎(大阪中央病院)、畑 啓介(日本橋室町三井タワー ミッドタウンクリニック)、東 大二郎(福岡大学)、福岡達成(大阪公立大学)、福長洋介(がん研有明病院)、藤井佑介(京都大学)、二見喜太郎(松永病院)、前本篤男(札幌東徳洲会病院)、升森宏次(藤田医科大学)、水島恒和(大阪警察病院)、宮北寛士(東海大学)、山下 賢(広島大学)、山本晃(三重大学)、渡谷祐介(広島大学)、渡辺和宏(東北大学)、渡辺憲治(兵庫医科大学)

**【審議事項】**

**① 後ろ向きデータベース研究 UC：1222例(47施設)、CD：330例(39施設)**

**1.主解析論文 accept 報告**

**Clinical Features and Oncological Outcomes of Intestinal Cancers Associated with Ulcerative Colitis and Crohn's Disease**

東京大学 石原聡一郎、野口竜剛

→publish 済み: J Gastroenterol. 2023 Jan;58(1):14-24

**2.副次解析論文 accept 報告**

**2.1. The effect of biologics on the risk of advanced-stage IBD-associated intestinal cancer: A nationwide study.**

慶應義塾大学 岡林剛史先生、清島亮先生

→publish 済み: Am J Gastroenterol. 2023 Jan

**2.2. Oncological outcomes of Crohn's disease-associated cancers focusing on disease behavior**

三重大学 山本晃先生、奥川喜永先生、大北喜基先生、問山裕二先生

→2022. 12. 23 accept: Annals of Gastroenterological Surgery

**2.3. Postoperative complications and prognosis based on type of surgery in ulcerative colitis patients with colorectal cancer: a multicenter observational study of data from the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum**

京都大学 星野伸晃先生 上野剛平先生 吉田真也先生 肥田侯矢先生

→2023. 1. 19 accept: Annals of Gastroenterological Surgery

**3. 新規プロジェクト**

**3.1. 背景の大腸炎が UCAN の予後に与える影響について**

慶應義塾大学 岡林剛史先生、清島亮先生

罹患範囲と癌の局在によって、非炎症群と炎症群にわけて検討を行った。

1189例の内、Stage0 やデータ欠損例を除いて 723例を解析対象とした。

炎症群 683例 非炎症群 40例

Primary outcome : OS、CSS、RFS

Secondary outcome : 予後予測因子、炎症群における内視鏡的活動度や病型よる予後の比較

結果 : 炎症群で若年、未分化型が有意に多い。Stage に有意差なし。

炎症群で OS に有意差はないが、CSS, RFS が不良。

炎症群が独立した予後不良因子であった。

結論 : 背景の炎症が予後に影響を与える。

東京大学 石原先生：背景粘膜の炎症の有無、また実際の炎症の程度はどのように判断するか。  
→岡林先生：全大腸炎型は全て炎症群に入っている。左側大腸炎型で右側の癌は非炎症群とした。  
左側大腸炎型で癌の局在が脾彎曲部の場合には判断は困難。炎症の活動度については Mayo endoscopic subscore で代用した。

### 3.2. 潰瘍性大腸炎関連若年者大腸癌の臨床病理学的検討

東京大学 品川貴秀先生

40歳未満の若年者 UCAN152例、非若年 960例を解析。

結果：発癌前罹病期間が短い(13.4年)、全大腸炎型が多い、癌家族歴は少ない。

術前治療として Tac/CyA 使用率、CAP 使用率が高い。

サーベイランスでの診断率が低い。

Mayo endoscopic subscore に差は無し。

術式、術後合併症、根治度、pStage に有意差なし。

低分化癌の割合が多い。

OS/RFS 有意差なし。CSS では若年群で不良。

今後その要因についてさらに検討をしていく。

第98回大腸癌研究会で発表予定。

## 4. 進捗状況報告

### 4.1. 「Colitic cancer 症例に対する腹腔鏡手術の有用性」

東京女子医科大学 谷 公孝先生、板橋道朗先生

→UC、CD いずれも投稿準備中

### 4.2. 「IBD 関連癌に対する chemoprevention に関する検討」

慶應義塾大学 岡林剛史先生、清島 亮先生

→上記 2.1. で publish 済み

### 4.3. 「Disease Behavior に着目したクローン病関連癌の腫瘍学的予後」

三重大学 山本晃先生、奥川喜永先生、大北喜基先生、間山裕二先生

→上記 2.2. で accept 済み

### 4.4. 「Colitic cancer における予後に対する癌局在部位の影響」

九州大学 水内祐介先生

→JCC 投稿済み

### 4.5. 「炎症性発癌における深達度と組織型の特徴」

兵庫医科大学 内野 基先生、池内浩紀先生

→Decision 待ち(緊急手術のため不在)

#### 4.6. 「Crohn's disease-associated anorectal cancer has a poor prognosis with high local recurrence: a subanalysis of the Nationwide Japanese Study」

大阪大学 荻野崇之先生、関戸悠紀先生、水島恒和先生

→AJG revise 対応中

#### 4.7. 「クローン病合併直腸肛門部癌における癌診断時年齢の予後への影響」

三重大学 大北喜基先生、問山裕二先生

→AJG 投稿予定

#### 4.8. 「炎症性腸疾患関連癌における術後合併症と予後との関連に関する検討」

京都大学 星野伸晃先生 上野剛平先生 吉田真也先生 肥田侯矢先生

→上記 2.3. で accept 済み

#### 4.9. 「IBD 関連腫瘍に対する内視鏡治療の現状」

昭和大学横浜市北部病院 小形 典之先生 石田 文生先生

→執筆中。

#### 4.10. 「UC 癌化症例における病悩期間による特徴の違いの解析」

東海大学 山本聖一郎先生

→第 123 回日本外科学会で発表予定。執筆中。

#### 4.11. 「潰瘍性大腸炎関連癌における術後補助化学療法の現状と成績を明らかにする」帝京大学 松田圭二先生

→データ解析中

#### 4.12. 「クローン病関連小腸癌の臨床的特徴についての検討」

東北労災病院 高橋賢一先生

→執筆中。大腸肛門管癌のサーベイランスの開始時期を 8 年/10 年いずれとするか班会議と併せて今後相談したい。肛門生検実施間隔が 1 年以内の群で早期癌が有意に多い。CD 癌のサーベイランスに関するアルゴリズムを作成中。

#### 4.13. 「炎症性腸疾患合併/dysplasia における臨床病理学的特徴の時代的変遷に関する検討」

東京大学 小松更一

→執筆中。ECCO23 で発表予定。

## ② 前向きデータベース研究

データ集積状況：UC 113 例、CD 23 例  
引き続き集積を進める。

## ③ Authorship について

1. 担当施設 author：2 人まで

2. 委員 author

使用データベース登録症例数が多い順に各施設 1 名（参加者一覧の担当者 1 に記載のあるお名前）

\* 兵庫医科大学は 2 名（内野先生、池内先生）

3. Last authors：野口、杉原先生、味岡先生、石原

→規定数が限られる場合はご相談いただく。

4. 全 author 数

投稿規定が許す限り記載（主解析論文では 32 名＋研究グループ名）

最後に研究グループ名：for the Study Group for Inflammatory Bowel Disease Associated Intestinal Cancers by Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum を加える

## ④ 今後の予定

副次解析は随時募集しております。事務局までご連絡ください。

前向きデータベースも継続しております。よろしくお願いいたします。

2023 年 1 月 26 日

石原聡一郎

事務局：東京大学腫瘍外科

野口竜剛、津島辰也、小松更一

品川貴秀